

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-1
健康づくりの推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課長 山崎一幸 電話番号 0852-22-5248

事務事業の名称	80歳20本の歯推進事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	8020（80歳で20本以上の歯を残す）を達成する
事業概要	「島根県歯と口腔の健康づくり計画」に基づき、総合的な歯と口腔の健康づくり施策を推進する ①口腔機能維持管理研修：市町村への歯科保健事業における支援、高齢者や障がい者に対する歯科保健指導の実施体制の整備 ②歯科保健推進事業：県民の奥歯総点検事業、歯周病唾液検査普及事業 ③8020運動推進特別事業検討評価委員会：歯科保健推進協議会の開催 ④歯科保健定着促進事業：圏域歯科保健連絡調整会議の開催 ⑤親と子のよい歯のコンクール	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	60歳（55～64歳）一人平均残存歯数	目標値		23.0	24.0	24.0	24.0	本
	式・定義	第2次島根県歯と口腔の健康づくり計画の目標（平成34年度24.4本）達成に向けた経過値	取組目標値			24.4	24.4	24.4	
			実績値	23.3	24.9				
2	指標名		目標値						%
	式・定義		取組目標値						
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	4,221	4,355
うち一般財源 (千円)	1,046	1,151

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・60歳の一人平均残存歯数：平成28年度 24.9本
- ・歯の喪失原因の第1位である歯周病の中等度以上の罹患率割合：40歳代で46.9%、50歳代で54%と増加
- ・噛ミング30セルフチェックシート（奥歯総点検事業）：県民1,075名に実施。
- ・口腔機能維持管理研修：367名の歯科保健関係専門職種が参加。
- ・歯周病唾液検査：県民200名に実施（イベント等）
- ・親と子のよい歯のコンクール：地区大会24組、県大会7組参加。
- ・8020よい歯のコンクール：132名参加。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・歯の喪失の原因となる歯周病を効率よく発見するため、「歯周病唾液検査」の普及拡大に向けて、市町村の職域関係事業や事業所を対象にした研修会で検査を実施、啓発を行った。
- ・親と子のよい歯のコンクールや8020よい歯のコンクールの実施では、マスコミを活用した効果的な啓発を行った。また、市町村・関係団体の協力により幅広い啓発を行うことができ、県民が歯と口腔の健康づくりを考える契機となった。
- ・県歯科医師会への委託により、噛むことの大切さを伝える媒体である「噛ミング30セルフチェックシート」を見直し、ライフステージごとに作成した。また、高齢者の口腔機能低下の早期発見のためのセルフチェックシート「いつまでもおいしく食べるために」と歯科医療機関で使用する「健オアドバイス」を作成した。
- ・県歯科医師会に委託し、歯科保健関係専門職種の資質向上のための研修、歯周病予防・糖尿病医科歯科連携研修会、高齢者の口腔機能と低栄養予防対策、がん患者の周術期口腔機能管理研修を開催。参加者からは好評を得た。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 - ・壮年期から進行した歯周病を有する割合が増加し、男性では30歳代、女性では40歳代ですでに半数以上が罹患している。また年齢が上がるにつれ、その割合が増加する。
 - ・歯を多く残すことに影響のある奥歯（臼歯部）が他の歯より早期に失われる傾向にある。
 - ・高齢者では歯の本数の減少が咀嚼力の低下につながっており、口腔機能が低下することにより低栄養や筋力低下など全身状態の悪化につながっている。
 - ・糖尿病患者のうち、歯科医療機関受診が必要であるにも関わらず受診していない状況がある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 - ・歯周病についての知識が不足しており、また歯周病は自覚症状に乏しいため、放置されていることが多い。
 - ・かかりつけ歯科医を持ち、定期的に口腔内を点検することが定着しておらず、自覚症状がないままに症状が進行している。
 - ・噛むことや奥歯を守ることなど口腔機能を維持することの重要性について理解が進んでいない。
 - ・医科、歯科双方からの糖尿病患者へのアプローチが十分できていない。このため、糖尿病患者が歯周病と糖尿病の関連を十分に理解できておらず、受診の必要性を感じていない。
- ③原因を解消するための「課題」
 - ・歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識の普及が必要。
 - ・かかりつけ歯科医を持ち、定期的に口腔内を点検することの重要性及び定着促進の啓発が必要。
 - ・歯周病唾液検査やセルフチェックシート、口腔機能低下予防に関する啓発媒体の活用による啓発。高齢者に対しては介護予防関係課と連携した啓発が必要。
 - ・働き盛り世代の歯と口腔に関する知識の普及と健康づくりを支援する環境づくりが必要。
 - ・糖尿病患者がスムーズに歯科受診できるよう、医科歯科連携の強化が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 第2次島根県歯と口腔の健康づくり計画に基づき、関係機関との連携強化を図り、8020の達成を目指したさらなる取組を推進する。
- ・関係団体、市町村と連携し、「歯と口の健康づくり週間」や「いい歯の日」等の啓発週間を中心に、歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識の啓発を行う。
- ・セルフチェックシートを活用し、噛むことや奥歯を守ることの重要性、かかりつけ歯科医を持ち、定期的に口腔内を点検することについて啓発を行う。
- ・壮年期については、事業所健診や市町村で実施する健診での歯科健診や歯周病唾液検査の導入への支援を通して、歯と口腔の健康づくりを支援する環境整備を進める。
- ・また、保険者や職域の関係機関等との連携により効果的に情報提供できる体制整備を図る。
- ・高齢期については、地域での健康づくり事業や介護予防事業などの身近で多様な場面を活用し、口腔機能低下予防の啓発を行う。
- ・歯科及び内科双方から、糖尿病患者に対し歯周病と糖尿病の関連など歯と口腔の健康に関する情報を提供する体制づくりを行うとともに、かかりつけ歯科とかかりつけ内科との情報提供が円滑に行われるよう医科歯科連携の強化を図る。